

# トーク&トーク

## 「特許価値評価の現状と課題」

12月5日(金) 10:00~12:30 (A会場)

企業や研究機関の活動に関して、これらの組織が有する知的財産権について、注目され、重要視されてきていますが、その過程で、知的財産の価値をどのように計り、どう評価するかについてもいろいろな議論や検討がなされてきました。しかしながら、その知的財産の中でも、技術の要である、特許の価値評価については、指標およびその手法について、まだ議論の余地があるようにも思われます。今回のトーク&トークでは、知的財産の価値評価、あるいは知的財産とイノベーションの関係に関して、それぞれのお立場で、研究・検討されてきた先生方に現状をご紹介いただき、その後、会場の多くの知的財産関係者との質疑・議論を通じて、特許価値評価の現状の認識を深め、また残されている課題等について、考えていきたいと考えています。

### 話題提供者 (五十音順)

#### 石井 康之氏 (東京理科大学大学院 イノベーション研究科 教授)

経営的視点からみた特許と技術について、経済統計学の立場で、かつ、出願(登録)件数のような量的側面でない、出願を個々の技術としての指標で評価する方法について研究。

著作他: 知的財産の経済・経営分析入門 一特許技術・研究開発の経済的・経営的価値評価 白桃書房(2009年)

#### 大津山 秀樹氏(イノベータ(株)代表取締役社長、ニューヨーク州弁護士)

メーカー、シンクタンクを経て、現 SBI ホールディング傘下のインテクストラ(株) 代表取締役として、技術・ノウハウ・ブランド等、知的創造活動の成果を活用した経営・事業戦略等に関与。

著作他: 新・特許戦略ハンドブック(第2章) 共著 法事法務(2006年)

#### 鈴木 潤氏(政策研究大学院大学 政策研究科 教授)

メーカー研究員を経て、特許データを用いた分析により、企業の研究開発やイノベーションと特許との関わり、企業の技術戦略、あるいはイノベーション政策の実証分析について研究。

著作他: 日本企業の研究開発活動から商業化へのラグ構造の分析, RIETI Discussion Paper, DP 11-J-002, January 2011.

#### 長岡 貞男氏(一橋大学 イノベーション研究センター 教授)

通産省、世界銀行エコノミストを経て、イノベーションと知的財産権(制度)をメインに、研究開発の生産性と収益性など、多くの観点から、知的財産に関わる一連の研究を精力的に継続。

著作他: 特許と経営(第1章) 共著 知的財産研究所(編)(2008年)

コーディネータ 徳野 肇(実行委員会副委員長;(株)三菱化学テクニサーチ 特許調査部長)